

国分寺市図書館運営協議会平成20年度第11回定例会要点記録

日時：平成20年7月31日（木）午前10時から12時

場所：本多公民館 会議室2

傍聴：2人

会長：委員2名欠席。本日は答申の最終決定をする。2年間の任期最後の運営協議会になる。答申の本文および概要の修正点の説明。資料「国分寺市立図書館の現状と課題について」は、審議の過程で出された意見をまとめたもので、答申文として合意されていない。これからの図書館の運営を考える参考資料として今後の検討材料としたい。答申の内容についてはほぼ合意が得られていると思うが、確認や意見があれば出していただきたい。まず「答申の概要」についてご意見を。

委員：「図書館サービスへの提言」の「当面のサービス充実策」「⑤施設設備の改善」と、「中長期的な課題・展望」の「①サービスの向上と中央図書館の必要性」について、北口再開発ビルに入る図書館という当面の設備の問題と、中長期的な問題の中央図書館必要性との整合性が読んでいてわからない。

会長：中長期的な中央図書館5,000㎡は最大規模であり、大きな施設設備や機能がサービスの拡大には必要だと思う。北口再開発ビルには、本多図書館以上の施設規模のものができる可能性があるが、5,000㎡は望めない。2,000㎡程度だとすれば、そこにどのようなサービスやよりいい機能を入れるか、何が必要か、一歩も二歩も前進するにはどうしたらよいか、ということで2つの考え方が出てきた。北口開発が現実的な課題として見えてきたので、そこに私たちとしてこういうことを望みたいと、市民の要望を示しておくことが必要である。

委員：中央図書館にはならないが、各地域図書館ほど小さいものではなく、中間ぐらいの大きさになる、ということか。「中央図書館的機能」と書いてあるので、当面のサービスなのか疑問に思った。

委員：「中央図書館的機能」とは、答申の本文の「中央図書館の機能・施設の一部」のこと。

委員：中長期的課題の中の「②地域図書館の充実と西国分寺地域図書館の必要性」について、文章のほうに地域図書館の充実が触れられていない。資料の充実と資料費の確保などは地域図書館の充実にふさわしいと思うので、5つの図書館の充実策として触れておいたほうがいい。

会長：地域図書館のこともふれるようにする。答申の本文についていかがか。

副会長：「市の歴史・文化・風土に関する文献資料の完備」の3行目、「現存する貴重な資料は可能な限り速やかに整理保存するとともに」のところに「収集」という言葉を入れ、「収集・整理・保存」としたほうがいい。速やかに収集ということが大事なのではないか。

委員：トイレのバリアフリーのことは、すでに課題として取り組んでいる状況から不要となったのか。もとまち図書館は段差があり、恋ヶ窪図書館は狭くて入りにくい。

事務局：障害者用のトイレは車いすで入れるように確認しているが再確認します。

委員：「中央図書館の必要性」の3行目、「利用者の中に不足感が生じている」の“不足感”という言葉が引っかかる。

会長：“不足感”という言葉は、ある種の不満、「もうちょっと専門的なものを」「もうちょっと高い質のサービスを」という物足りなさを言っているのだが。

委員：“不満”というのとはちょっと違う。設備的にも内容的にもないわけではないので。

事務局：「中央図書館の必要性」で、「武蔵野市立図書館のように床面積が7,000㎡をこえる」とあるが、計算してみたら三多摩26市の中央図書館の平均は3,000㎡を超えているという数字があるが。「中央図書館の設備」の表で、「談話室」のイメージはどんな内容のものなのか。中高生などが交流する「交流室」みたいなイメージなのか。「談笑、読書のできるオープンスペース」は談笑と読書が両立するような場所という意味なのか。本を媒介とした交流ということを主にしているのか。「施設整備」の項で基本構想での図書館計画と社会教育委員会議で審議された図書館計画の内容とが直接結びついていない部分があるが、文章としてこれでよいだろうか。

会長：社会教育委員会議で「国分寺市図書館基本計画」が審議され、何かしら基本構想には影響を与えたので「～に基づき」という形でいいか。

委員：「審議された」とそこで文章を切るのもいい。

会長：では「提案され」を「審議され」に、「結びにかえて」に、「昭和47年に策定されたものであるが」とあるが、そこを「昭和49年」に「すでに35年が経過し」を「30年以上が経過し」に修正する。

事務局：現代公共図書館の役割と機能の項目の⑤では「政策立案活動」や議員の調査活動の次に「地域や市民活動」となっているが、市民活動に関する情報の発信を文章の先にしなくてもいいか。

会長：図書館は、市民に対してのサービスは当たり前であり、もう一つ自治体に対してのサービスもあるので、あえて先に持ってきて、調査機関であることを強調したいという趣旨の議論だった。

委員：両方あるから誤解されるので、地域・市民を別のところに持っているのはどうか。

会長：くくりとしては、④は生活や仕事、⑤は住民自治的市民活動ということなので、地域作りとか地方自治の側面や住民自治にかかわること、ということが言いたい。

委員：地域・市民活動という大事な項目を別におこして⑥として次を⑦とするということではどうか。

委員：同じ内容について書いているので分けないほうがよい。

委員：住民自治ということをわかりやすく入れたほうがいい。

事務局：「同時に」「～とともに」というようにするのはどうか。

会長：「中央図書館の設備」の表で「談笑」などについて意見があったが。

委員：会議室や集会室などは予約して使うが、ちょっとした打ち合わせや相談ができる部屋が図書館の中にあるといい。図書館の中だとおしゃべりはできないが、図書館の外や入口あたりに若者が交流できる場所が必要なのではないか。本を読んでもしゃべってもいい、オープンスペースというものがあるといい。

会長：オープンスペースというと、本多図書館でいえば喫茶コーナーの雰囲気か。福生市や朝霞市では、入り口のロビーや自販機が置いてあるところなどの空間になるだろ。

委員：「談話室」は、小部屋として独立はしているが、気楽に使える部屋。

会長：「談笑」を「交流」に変えるのでよいか。

副会長：ちょっと声を出してもいい場所がほしい。仲間と本を選んだりするのに、周りの迷惑にならないようにちょっと声を出してもいい場所がほしい。

委員：堅苦しくはないが、閉じた部屋という意味。

委員：部屋だけど、そこに集まって相談するようなところ。

会長：では「会議室、集会室」の後に「談話室」を入れる。

副会長：おはなし会などの活動をする時、作業をする部屋がほしいと思っていた。図書館でそういう活動をしたい時、準備できたものを置いておける場所がグループ活動室としてあるといい。小平市には文庫の部屋がありそこで選書もできる。「グループ学習室」とは違う。

会長：「グループ学習室」は不特定多数のためのもので、一つのグループの恒常的なものではない。ボランティア活動室とかになるか。

副会長：活動という言葉が入ると、そこに物も置かせてもらえるのではないか。毎回片づけて持って帰るのは大変なので、その時だけその中に置いておける部屋。

委員：図書館の活動を支援するボランティア（書架整理とか、展示とか）が作業する部屋と広く考えてもらいたい。趣味的に使うのではなく公共的に使うという意味で、ボランティア活動室というのが必要だと思う。

委員：ボランティア室というのはいいのではないか。いろんなことに利用できる。

委員 作業することと物を置いておくということは違う。物を置くのは倉庫だ。

副会長：物を置くだけでなくそこで作業をするので倉庫ではない。

委員：結局長期間部屋を占領することになる。

副会長：子どものことだけでなく、図書館の展示や市民のアイデアが入ることで仲間が増え、ボランティア活動が盛んになることで図書館を助けていくことになる。

委員：並木図書館には戸棚があってパネルシアターなどを置いてある。そういうものの充実したものがあればいい。

会長：市民活動している人の控室になったりするものということによいか。他になければ、今いただいた意見、表現上のことや記述的なことは、会長に一任していただきたい。答申・概要を、任期が8月17日までなので、それまでに教育委員会に提出する。

次に報告事項に入る。

事務局：「子ども読書活動推進計画の策定状況について」説明。

会長：策定スケジュールは。

事務局：議会や教育委員会にも説明している。利用者懇談会でも説明し意見をいただいている。今後、パブリックコメントを実施する原案を作る。10月の教育委員会に議案として提案できるような流れで考えている。

委員：策定されるのが平成20年度の半分を過ぎてしまうが。

事務局：書いてある施策のなかで、リストの作成などはもうすでに行っているものもある。

副会長：策定委員会に参加した感想だが、現場の先生が参加していて、内容が現在の子どもたちのことを念頭において討議されたというのがよかった。図書館側からは読書好きの子、図書委員とかが中心だった感じだが、普通の子どものことを考えていて、参加した意味があった。

委員：策定委員会に出席して現場の先生の声が聞いてよかった。小学校の表には「団体貸出における図書の運搬方法の検討」と物流のことが出ているが、幼児のほうには「保育園幼稚園に援助する」とあるだけ。保育園の団体貸出を進めるためには、保育園幼稚園への物流が必要だと思うのだが。委員会で話されていたと思っていたが入っていない。すべての計画に対し物流が伴わなければ難しいと思う。

事務局：幼児の団体貸出については、図書館に近い保育園は先生が子どもと一緒に来て本を選び団体貸出を受けている。保育園や幼稚園は、基本的にすでに本を持っていて、図書館からの団体貸出より、行事などの時どんな本があるかという情報の方を要望されている。今まで運搬ということでのご希望がなかったので特には入れなかった。

委員：必要な本が遠いところにあることもあるので、物流のシステムがあればよい。つくしんぼなどでも、申し出があれば回っていただけるようなシステムがあればいいということが話し合いの中で出たように思う。

事務局：つくしんぼ等には、団体貸出用の本のセットを作る予定。物流のことも含めて表現を考えてみる。

委員：物流の面でも必要があれば支援できる体制を整えるというような文章にしてほしい。

事務局：「図書館利用者懇談会について」報告。

委員：まだ全館で終わっていないのに記録を出していただき、様子がわかり感謝している。

委員：運営協議会で利用者懇談会について話し合う時間がなかったという点が反省点である。もしこれからも利用者懇談会を続けるなら、運営協議会の議論にもう少し反映できるようにしてほしいと思う。

会長：今期の運営協議会は、「子ども読書活動推進計画」と「答申作成」が主であったので、反省として次期の運営協議会に送りたい。

委員：小学生の親から「学校に司書がいてくれることがうれしい」という発言があった。図書館がほしいということも言っているが、学校に司書がいて子どもに本を手渡し

てくれることが、子どもたちによい環境を与えていると実感してくれている。

副会長：今回参加者が増えているが、図書館として取り組みがあったか。

事務局：日程・時間・曜日については、それぞれの図書館に関係している子どもの読書に関わるグループに都合を伺いながら日程を組んだ。「子ども読書活動推進計画」のご意見を伺うのがテーマだったので。

副会長：午前なら参加できるという若いお母さんもいる。年間の中で1日は午前にする回があると、また違う人が出られるのではないかと思う。

事務局：「ご意見箱への意見」の報告。

会長：検索についての意見が多いようだが。

事務局：図書館電算システムをこの秋に更新することによってお応えできる部分もあり、ヘルプ画面の充実なども考えている。

会長：多様な意見も出て全体的に楽しい運営協議会だった。最後になるので次期への期待も含め、感想なり意見を一言ずつ出していきたい。

委員：もう少し経験をお話ししなければいけない立場だったのに、果たせたかと不安で、申し訳なかった。厳しい財政状況の中で頑張っているのだからこれからも期待している。

委員：大学図書館と公共図書館の違いや、中学校の読書が骨抜きされているという実態がわかった。インターネットで何でもできるようだが、図書館の資料が必要である。ぜひ北口駅前図書館を実現してほしい。

委員：私の無理な提案に対し熱心に取り組んでいただいて感謝している。最近では、障がい者問題は門前払いされることが少なくなり、いまは時代そのものが変わって来ているのかと思う。今後も皆さんに理解してもらえるスタイルで発言していきたい。コミュニケーションの点では、Eメールがあれば簡単に共有し合えるので、改善の余地があるという印象をもった。

副会長：市民として、子どもの読書のことしかわからないなか、この会でたいへん勉強させていただいた。国分寺市の図書館が充実しているという足跡を見せてもらった。運営協議会が、今後も力をあわせていければいいと思った。

会長：国分寺市が図書館協議会を持っていなかったこと驚いた。会長になり、最初なので、これからの図書館のあり方の方向を付けていくことになるだろうと緊張した。顔も知らないメンバーが揃い活発に議論ができてよかった。答申作成も、それぞれの委員の素地が備わっていて、実質的な議論をしながら進められてよかった。将来に根っこなり、種をまくことになることを考え、これからの10年を見据えた答申になったと思う。皆さんの協力と熱心な議論で、こんなに楽しい協議会はなかった。

委員：図書館のヘビーユーザーであったが運営協議会に参加して図書館が理解できた。この2年の間、運営協議会とは関係なく、駅前分館が政策的なことできてしまい残念な気もするが。答申は、我々としてはあるべき姿はこうだというものを作れたと思う。これからも利用させていただく。

委員：図書館のファンとして一市民として参加した。最初、テーマが広くて、2年間かけてやれというが、協議会の間口が広いと思ったが、小委員会に絞られて、上手に委員会を活用しながら出来たのではないか。二ヶ月に1回とか三ヶ月に1回だと、認識が深まってきたのに忘れてしまい、また一からやらなければならないという気がした。予算の関係があるかもしれないが、もう少し回数があったほうがよかった。楽しく参加した。これからも、図書館には週1、2回は通っていきたい。

委員：文庫をしていて、文庫と学校の行き来だけで、子育て中のお母さんとしか接していなかった。いろいろな職業・経験の人と会ったのは初めてで、皆さんいい方でいろんなことを聞いていただきありがたかった。読み聞かせのことなどを考えると、やはり「学校支援センター」みたいなものが必要だと思った。図書館の中に専門的にそれをしてくれる人がいないと無理だと気付いた。重要な2年間だったと感じる。自分の言ったことを反映していくという経験にびっくりした。10万市民の図書館協議会の第1回に居合わせたのはよかった。

会長：それではこれで閉会する。